

奈佐の浜で考える地域の現状と環境問題

岐阜大学 ESD クオリア

1. 目的

奈佐の浜の清掃活動および学生によって環境問題について話し合い、学生として取り組むべき課題を明らかにする。

2. 背景

伊勢湾流域を発生源とする流下ゴミは年々増え続け、年間 1 万トンを超えていると言われている。その 2 分の 1 が三重県の鳥羽市に漂着ゴミとして打ち上げられている。

なかでも、のり、わかめ、牡蠣などが特産物で自然の眺めにすぐれ美しい答志島には年間数千トンの漂着ゴミが押し寄せてくる。答志島の人々は、奈佐の浜に漂着したゴミをオイルフェンスで囲って再び漂着ゴミとなって他の地域に害を及ぼさないように対策をとっている。答志島の現状を考えると島の人々だけで、この問題を解決するには限界がある。そこで、2012 年に立ち上がったのが“奈佐の浜プロジェクト”である。このプロジェクトは、東海三県の市民が協力し、伊勢湾流域の漂着ゴミを 5 年後に 3 分の 1、10 年後に半減、100 年後には漂着ゴミ 0 という目標に向け奈佐の浜の海岸の清掃活動を行うものである。

今回の実践活動は、ESD の活動実践の一環として行う。ESD とは持続発展教育のことである。今回活動を行う岐阜大学の学生団体「ESD クオリア」では、学生自身が理解を深め、ESD を広める発信者となるため以下の 3 点を実践している。1 点目、環境保全などに関する活動へ参加し活動への理解を深め、学生の視点や考えを発信する。2 点目、学生間の意見交流を積極的に行うことで、日々の生活を見直し、今後の可能性の提案を行う。3 点目、子どもが参加者となるイベントのアシスタントをすることで、子どもにとって憧れの存在となり、身近な将来像の 1 つを体で表現する。本活動では、1 点目と 2 点目の実践を行う。まず、環境問題について学習している高校生や大学生を集め、奈佐の浜の清掃活動を行う。清掃活動後、学生同士で奈佐の浜の環境問題や、自分たちが行ってきた活動について話し合う。

こうすることにより、奈佐の浜の清掃活動を行うだけでなく、奈佐の浜の環境問題や普段の活動紹介を行うことができ、様々な意見交換を行うことができる。意見交換から、奈佐の浜の漂着ゴミ問題や、自分たちの新たな課題を考え解決策を見つける。

3. 奈佐の浜の海岸清掃活動への参加

奈佐の浜海岸清掃（奈佐の浜プロジェクト）は、毎年 10 月に実施されている。平成 27 年度は 10 月 11 日（日）に実施され、愛知、岐阜、三重 3 県から約 300 人の参加者があった。大学生は、岐阜大学(19 名)のほか、中部大学、三重大学、四日市大学の学生約 50 名で

ある。

10時に島に到着し、10時30分から11時30分まで、奈佐の浜の海岸漂着ゴミの清掃活動を行った(図1)。昼食後、学生交流会が開催され、岐阜大学ESDクオリアのスタッフが、進行役を務めた。10のグループに分かれ、奈佐の浜での海岸清掃活動で感じたこと、考えたことを話し合った。主な意見は、次のようである。

- ・地元住民のやさしさを感じた。ゴミを拾ってくれてありがとうと言われた。
- ・何年も続ければ少しでも形になるので、続け周りの人に伝えていくことが必要と感じた。
- ・他の学生からの自分にはない意見が聞けた。

4. 奈佐の浜プロジェクトを通して見えてきた課題

学生交流会の意見から「伝える」ことの重要性が見えてきた。ESDクオリアでは、そこでの体験を伝える場として、まず、岐阜市役所が主催しているイベント「まるごと環境フェア」(平成27年11月22日開催)を活用し、ポスター発表することで、多くの人に奈佐の浜の現状を知ってもらう機会とした。会場には子供から大人まで様々な方が来場してくださり、奈佐の浜の現状を知ってもらうことができた。

今回のプロジェクトでは、多くの方に奈佐の浜の現状を知ってもらうことができた。ゴミの清掃活動は地域活性化にあまり関わりがないかのように思われるが、清掃活動を行うことで様々な人と繋がることで地域活性化を行うことができると分かった。また、環境問題が身近な問題だけではなく、流域としてつながっていることも実感できた。平成28年度の奈佐の浜プロジェクトに向けて、広報活動を継続し、小学生から大人まで幅広い世代の参加を呼びかけていく予定である。

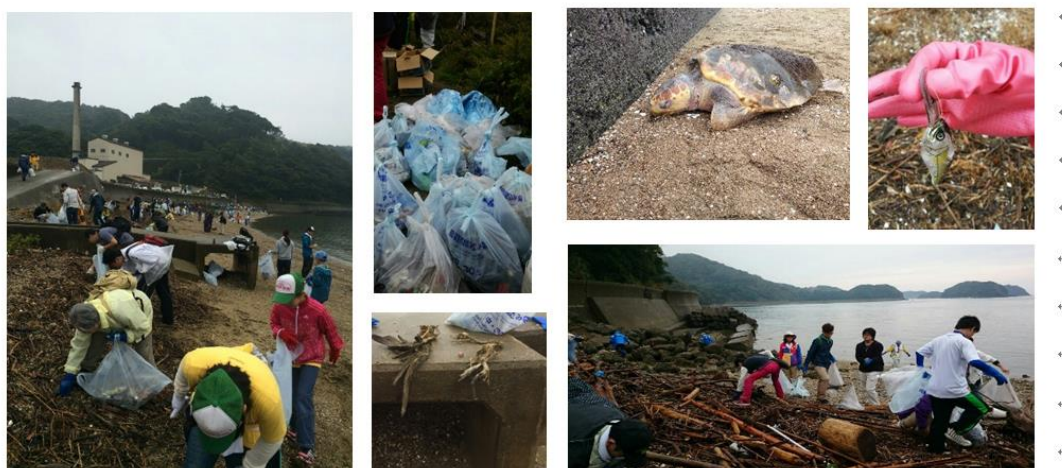


図1. 三重県答志島・奈佐の浜における漂着ゴミの清掃活動(2015年10月11日)。清掃活動後、一般参加者と学生に分かれ、交流会を実施した。